

# 技術認定

日本産科婦人科内視鏡学会 (Japan Society of Gynecologic And Obsteric Endoscopy ; JSGOE) の認定制度は内視鏡に携わる医師の技量を共通の基準に従って評価し、所定の基準を満たした者を認定するもので、これによりわが国における内視鏡外科手術の健全な普及と進歩を促し、ひいては国民の福祉に貢献することを目的として発足している(表1)。

平成15年度に第1回目の認定を行い、以後毎年新規申請を受け、現在、認定医(腹腔鏡):257名、認定医(子宮鏡):10名(うち6名は腹腔鏡と両方保持者)が認定され、平成22年現在8回目の認定申請が行われている(表2)。

また、すでに認定後5年を経過した認定は更新申請を行い、再認定がなされている(表3)。

また、平成20年度から、内視鏡技術認定は腹腔鏡と子宮鏡と分けられ、平成22年度から子宮

鏡の子宮鏡ビデオ審査基準の変更が行われた(表4, 5)<sup>1)</sup>。表6に腹腔鏡ビデオ審査の採点基準をまとめた。

「技術認定制度規則」および「技術認定申請方法(新規・更新)」は学会ホームページからダウンロードできる([http://jsgoe.omin.jp/nintei\\_seido.html](http://jsgoe.omin.jp/nintei_seido.html))。

最後に、日本内視鏡外科学会 (Japan Society for Endoscopy Surgery ; JSSES)における技術認定と日本産科婦人科内視鏡学会の技術認定との関係について説明する。両学会は協力関係にあり、日本内視鏡外科学会技術認定委員を日本産科婦人科内視鏡学会の役員が務め、認定作業を行っている。そのため、日本産科婦人科内視鏡学会の技術認定(腹腔鏡)取得者で、日本内視鏡外科学会会員である者は技術認定の申請は可能である(詳細はJSSESホームページ<http://www.asas.or.jp/jses/>を参照)。

## 文献

- 1) 堤 治:日本産科婦人科内視鏡学会内視鏡関連技術認定。産科と婦人科 2009 ; 11(165) : 1456-62.
- 2) 明楽重夫:腹腔鏡手術スキルアップ・シリーズ 産婦人科1 基礎編。p199-218, ベクトル・コア, 東京, 2006.
- 3) 堤 治:1.腹腔へのアプローチ。産科と婦人科 2008;9(1): 1057-66.
- 4) 堤 治:2.視野の確保。産科と婦人科 2008 ; 10(1) : 1197-204.
- 5) 堤 治:3.基本手技1。産科と婦人科 2008 ; 11(1) : 1335-42.
- 6) 堤 治:4.基本手技2。産科と婦人科 2008 ; 12(1) : 1721-32.
- 7) 堤 治:5.卵巣嚢腫。産科と婦人科 2009 ; 1(1) : 1-8.
- 8) 堤 治, 黒澤貴子:6.子宮筋腫核出術。産科と婦人科 2009 ; 2(1) : 121-6.
- 9) 堤 治, 黒澤貴子, 保母るつ子:7.子宮筋腫核出術 2-LAM。産科と婦人科 2009 ; 3(1) : 247-54.
- 10) 堤 治, 黒澤貴子, 土屋富士子:8.子宮全摘術。産科と婦人科 2009 ; 4(1) : 373-8.
- 11) 堤 治:9.異所性(子宮外)妊娠。産科と婦人科 2009 ; 5(1) 507-11.
- 12) 堤 治, 黒澤貴子, 保母るつ子ほか:10.不妊症と内視鏡。産科と婦人科 2009 ; 6(1) : 641-7.
- 13) 堤 治:11.性分化異常への応用。産科と婦人科 2009;7(1): 775-82.
- 14) 堤 治, 安藤正明:12.悪性腫瘍への応用。産科と婦人科 2009 ; 8(1) : 901-7.
- 15) 堤 治, 明楽重夫, 大須賀 譲ほか:産婦人科における技術認定—審査の実際と採点のポイント。日本内視鏡外科学会雑誌 2006 ; 11 : 137-40.

(浅川恭行, 久布白兼行)